

そして、須賀川にその本社をおき、伝右衛門がその副社長になりました。明治七年のことです。

四年後、この産馬会社は、福島県全体の産馬会社になりました。宮先町につくられた本社は、西洋風のモダンな建てもので馬のセリがある日は、須賀川じゅうがお祭りのようになにぎわいでした。また、馬を売ったり買ったりするためにお金がいるので、銀行ができました。

伝右衛門には、もう一つやりたいことがありました。それは農業です。それもみんなが昔^{むかし}からやっている農業ではなくて西洋の農業です。

そのころ、東京に津^つ田^だ仙^{せん}という学者がいました。この人は西洋の農業の方法を日本の国じゅうに広めようと、農業の学校を開いたり、農業のざっしをつくったりしていました。

伝右衛門は、この人と手紙のやりとりをして、西洋の農業について勉強していました。が、じつさいに農業をするには、本を読んだだけではできません。それで、